

会報 (第10号)

目 次

- なぜ、いまメルコスールか？
- アルゼンチンのタペ ご案内
- (続) ドン・サクベイ・ノモト
日ア友好親善のシンボル
- タンゴの神様・出生の秘話：
カルロス・ガルデルの父親現る！
- アルゼンチン近況
政治・経済
- 日ア関係諸行事
- 文化行事のお知らせ
- その他のお知らせ
- 人事往来



カルロス・ガルデルの出生秘話 P.7

きょうのキーワード

メルコスール

南米共同市場。アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイ、パラグアイの4カ国で1995年1月1日より実施した自由貿易機構。メルコはスペイン語のメルカード（市場）の縮小語とスール（南）の合成語。総面積は南米の7割（日本の31.7倍）、人口2億人の規模。

近い将来、チリ、ボリビアと協定を締結し、ヨーロッパ連合との地域間協定まで進展する見込み。

世界の脚光を浴びつつあるメルコスールへの、わが国の対外投資をこれから進めるべきだとの識者の声が高まっている。

「なぜ、いまメルコスールか？」次頁参照。

なぜ、いまメルコスールか？

経団連会館 11 階の国際会議場は、満員の聴衆 320 名の熱気に溢れていた。

1995 年 9 月 8 日（金）イグレシアス米州開発銀行総裁とメルコスール構成国 4 カ国の代表：アルゼンチン、カバーロ経済大臣、パラグアイ、バレイロ大蔵大臣、ウルグアイ、モスカ大蔵大臣、ブラジル、メディロス ALADI（ラ米統合連合）大使による各国の立場からの現状と抱負を的確かつ簡潔（日本側コメントーターの指摘）に説明した。

なぜ、いまメルコスールか？

日本側代表の内海慶大教授（元大蔵省審議官）は「これから対外投資はハンターの文化でメルコスールへの進出」を勧め、つぎのようなコメントがあり注目を集めた。

「4 カ国は大西洋に面している。そして欧洲に向いている。欧洲移民の国のために、伝統的な繋がりが強い。

一方、日本の対外直接投資が変化している。かつての生産拠点から販売を目的としたものに移行している。最初はアジアに生産拠点を展開し、ついで販売への拠点作りに重点を指向。メルコスールは、その観点から捉えるべきだ。欧洲というマーケットを見据えた生産拠点を確保することができる。

アルゼンチンをはじめ南米各国とも変わってきた。単に経済改革のみならずカルチャーが変わってきた。経済の行動様式が punctual になった。南米には日系二世、三世がいる。彼等が日本とメルコスールを融和する役割を担ってくれるだろう。

世界経済も変わっている。①市場経済に携わる人口は、5年前は 5 億人、いまは 50 億人。第一次產品が問題になり価格は必ず上がる。②工業製品の価格は下がる。③金利は上がる。将来的には日本は①●②●③○だ。一方、メルコスールは①○②○③●だ。従って双方の組合せが理想的だ。

これからはコメ作りのカルチャー（横並び文化）はダメで、ハンターのカルチャー（独自的文化）でゆくべきだ。モノ作りもいまやハンターであるべきだ。他人と同調して米・アジアへの投資ではなく、ハンターの文化でメルコスールへの投資をすすめるべきだ。」

メルコスール加盟 4 カ国はつぎのような経済規模をもっている。

- I 総面積は 1200 万平方キロメートル（南米の 70 %）
- II 2 億人の人口（南米の総人口の 64 %）
- III GDP 7000 億ドル（南米全体の 60 %）
- IV 人口一人当たりの所得額は 4000 ドルを上回る

1991年3月26日、アスンシオン条約が加盟4カ国により調印され、各国の批准を経て1995年1月1日に発効し、対外共通関税、世界貿易への開かれた市場という原則に基づき最大関税率は20%。この日以降、加盟国内で作られた産物は関税、非関税障壁を原則的に無くし、平行スケジュールの対象である一定の製品を例外として、メルコスール域内の関税率0%を実現した。

本来、メルコスール各國とヨーロッパは伝統的に極めて緊密な関係を維持しており、EU（ヨーロッパ連合）はメルコスールの最大の貿易相手地域である。1992年の実績ではEUはメルコスールの輸出の31%、輸入の25%を占めた。1979年から1992年まで、EUの対ラテンアメリカ直接投資の60%がメルコスール諸国に集中した。

一方、日本をはじめとする環太平洋諸国もメルコスールの重要な貿易相手国となっており、メルコスール諸国との輸出の12%以上が極東諸国に向けられている。日本のラ米にたいする直接投資の68%がメルコスール諸国を対象としている。

さきに来日した各大臣の発言のうち特に興味を引いた点は、

- 1 域内貿易は、すでに2~3倍に増加している。
- 2 EUとの地域間協定を取り進める一方、チリ／ボリビアとの協定も近い将来、締結されよう。
- 3 貿易規模の拡大もさることながら、国内経済の改革モデルとする。つまり、メルコスールの促進により、競争にさらし企業の近代化を進める手段とする。
- 4 日本の直接投資と技術移転を、東南アジアなどに期待する。

メルコスールはNAFTAより、欧州・アジアとの関係をより重視する（カバーロ経済大臣）姿勢を示しており、基本的概念として競争を通じて生産性の上昇を計りマクロ経済の安定を指向する新しいコンセプトを導入している。このような動きは、かつての南米諸国には見られなかったものであり、メルコスールを起爆剤として本格的なティクオフが始まったものとみられる。

新規投資分野

メルコスールの発想は、ビジネスの進展を促進するほか、多様な分野つまり、道路、橋梁などの公共事業、運輸、農業、林業、漁業、牧畜業、鉱業、食品業、自動車産業、サービス、銀行、流通、エネルギー業界における膨大な投資チャンスへの可能性も開かれている。

インフラ・プロジェクトでは総投資額100億米ドル程度と予想され、パラグアイ・パラナーティエテ間の水路、サンパウロ-モンテヴィデオ-ブエノスアイレス間のハイウェイ、ブエノスアイレスに架けるリオ・デ・ラ・プラタ大橋など壮大な計画がある。

アルゼンチンのタベ

タンゴの王様 D・ラシアッティ 楽団とともに

会員とアミーゴスの親睦・交流と“本場のタンゴ演奏”を
ブュッフェ・ディナー（飲物つき）で 心ゆくまでお楽しみください。

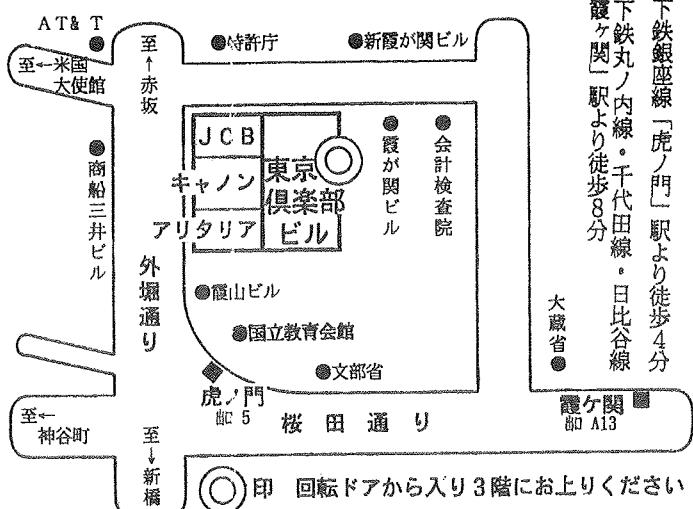
日 時：11月15日（水） 6:00pm～8:00pm

場 所：霞ヶ関三井クラブ 東京俱楽部ビル 3F

千代田区霞ヶ関3-2-6 TEL (03) 3580-0651

会 費：会 員 ¥ 8,000 非会員 ¥ 10,000
夫人同伴 ¥ 15,000

曲 目：カミニート
淡き光、さらば草原
ジーラ・ジーラ
ラ・クンパルシータ
UNO、永遠の愛
忠犬“ハチ公”
絶望の詩 など



協力：日亞教育文化促進会

後援：アルゼンチン大使館

主催：社団法人 日本アルゼンチン協会

お問い合わせ：TEL (03) 3501-4684 FAX (03) 3595-3932

(続) ドン・サクベイ・ノモト

日ア友好親善のシンボル

野本作兵衛さんのモンテネグロ公使との出会いのルーツは、1953年（嘉永6年）ペリーの浦賀上陸に始まる。この経緯とその後の物語は、さる7月19日（水）日本経済新聞の文化欄に「アルゼンチン、黒舟から縁——祖父同士知己の元公使知り、母校が交流60年」と題して掲載された。各方面からのご要望もあり、転載することとした。

当時38才の野本さんとペリー司教の孫同士の会見は、日本が国際連盟を脱退（昭和8年3月27日）し日米関係が微妙になったため、友好維持を計るべく伊豆の下田にペリー提督の記念碑を建立しようと報知新聞が企画し、関係者を発掘したのが発端である。

野本さん宅には会見の翌年、1934年5月30日付けのジェイムス D. W. ペリー、ロードアイランド地区司教からの丁重な礼状が保管されている。

アルゼンチン、「黒船」からの縁

◇祖父同士知己の元公使知り、母校が交流60年◇

<ペリーの孫が“仲介”>

6月23日、私は東京・元麻布にあるアルゼンチン大使公邸で、ホセ・ラモン・サンチス・ムニョス大使から「5月勲章」をいただいた。62年前の昭和8年（1933）、当時のモンテネグロ公使を訪ね、祖父所蔵の日本刀二振りをお渡ししたことが、まるで昨日のことのように脳裏によみがえった。

この9月で100歳を迎える私は明治28年、茨城県猿島群長田村（現境町）で生れた。祖父作次郎は、下総関宿藩の右筆（ゆうひつ）だった。今で言えば、文書記録係とでも言おうか。関宿藩は当時、物流の動脈であった利根川から江戸湾に至る沿岸の警備を幕府から命じられていた。嘉永6年（1853）、ペリーの浦賀上陸に際して、祖父が幕府に呼び寄せられた。祖父は「速書きの作次郎」と呼ばれ、めっぽう筆が速かった。

いったんは幕府に納めたはずの重要文書だったが、明治維新のどさくさで、いつしか我が家に蔵に舞い戻っていたことを知ったのは、大正のころだった。やがて時代は移り昭和8年、当時の報知新聞に、ペリーの孫のジェイムス・D. W. ペリー氏が来日することが報道され、関係者の行方を探しているという記事が載った。これも何かの縁と思った私は、作次郎の孫であることを名乗り出て、当時のグルー駐日大使の立ち会いのもと、ペリー氏にお目にかかった。

我が家に伝わる日本刀と、会見の記録をペリー氏にお渡ししたのである。そして、

その記事を見たアルゼンチン公使アルトゥーロ・モンテネグロ氏が手紙を下さった。そこには、「私の祖父は、ペリー提督とともに浦賀に上陸し、ノモトと名乗るサムライに大変世話になった」と書かれていた。

<日本刀を二振り贈る>

さっそく、公使を訪ねた私は二振りの日本刀を贈った。一振りはモンテネグロ公使、そしてもう一振りはアルゼンチン海軍のドメック・ガルシア提督に。

というのも、たまたま私の家の近くに、終戦時に首相を務めた鈴木貫太郎氏が住んでおり、小さいころから日本がアルゼンチンに大変世話になったことを聞かされていましたからだ。

1905年の日本海海戦で、東郷平八郎率いる日本海軍はロシアのバルチック艦隊を撃滅した。その一因となったのが、アルゼンチンが日本に譲ってくれた当時のハイテク艦、「春日」と「日進」である。アルゼンチンが、帝政ロシアの圧力に屈せず、当時東洋の一小国にすぎない日本に最新鋭艦を譲渡したのは、英國海軍兵学校で机を並べたガルシア提督と東郷提督の友情ゆえである。

<茨城の小学校に奨学金>

ここからアルゼンチンと私の母校、境町立長田小学校の交流が始まる。翌年、モンテネグロ公使が我が家、長田小学校を訪問することになった。地元は大騒ぎとなり、私がリーダーをしていた青年団は自動車でやってくる公使のために、道路に砂利をまいて車1台が通れる道をつくった。なにしろ当時、村には電話もなく、自動車も1台あるだけだった。

2月19日、沿道を人が埋め尽くす中、公使がやってきた。子供たちは晴れ着を着、万歳の歓声をあげながら、初めて見る外国人を歓迎した。小学校で行われた学芸会を鑑賞した公使は、多額の奨学金を贈る約束をされた。

奨学金は、「モンテネグロ賞」として、優秀な成績を収めた卒業生5人に計100円が贈られることになり、公使が離任された41年までの7年間続いた。その間にも、公使は当時はまだ珍しかったラジオ、カメラなどの工業製品や、貝の標本、茶箱いっぱいのひな人形などを贈る傍ら、青年団のためにかわらぶき、約20坪（1坪は3.3平方メートル）の青年館を600円の費用を使って建ててくださった。この建物はかなり傷んではいるが今も健在で、当時の交流をしのばせる記念品が陳列されている。

日米開戦まで続いたアルゼンチンとの交流も、時代の波にほんろうされ、私は特高警察のしつような尾行にあい、何度も取り調べを受けた。モンテネグロ賞を受けた男子生徒の多くは戦場に赴き、帰らぬ人となつた。

戦後、交流が再開されたのは、65年だった。戦争で空白の期間はあったが、交流30年を記念してモンテネグロさんに感謝する会が、町役場の協力で開催され、時のアルゼンチン大使ギジェルモ・カーノさんが長田小学校に来校された。

その後、歴代大使との交流が続き、日本に立ち寄ったアルゼンチン海軍練習艦の士

官候補生や、少年野球チームが小学校を訪れた。最近では、88年に社団法人日本アルゼンチン協会の副会長で元駐アルゼンチン大使の近藤四郎さんのお骨折りで、アルゼンチン大使公邸の庭石をいただき、「友好記念の碑」を建立した。

除幕式・記念式典には、エンリケ・ロス大使に臨席いただき、その日、つまり6月2日を「アルゼンチンの日」と定めて、毎年全校行事として子供たちの手で式典を営んでいる。。今年はアルゼンチン・タンゴの名曲「カミニート」を全校生徒がスペイン語で齊唱するという催しもあり、列席した大使館のアギーレ文化担当参事官ら関係者は涙ながらに聞き入ってくれた。

<今やサッカー留学の夢>

県屈強のサッカー校と言われる長田小学校の子供たちの夢は、アルゼンチンにサッカー留学することだという。モンテネグロさんは既に他界されたが私とともに作り上げた日本とアルゼンチンの交流のきずなは今後も連綿と続いていくだろう。

(野本作兵衛=農業)

タンゴの神様・出生の秘話 カルロス・ガルデルの父親現る!!

「ガルデルの父親遂に判明!?」近着のアルゼンチンからのレビスタに目を通しておしましたら、かような大スクープ（？）記事に出くわしましたのでその概要をお伝えします。

その前にどうしてガルデルの父親判明というのが大スクープになるのかハッキリさせておきましょう。

生い立ち：アルゼンチンは勿論ラテンアメリカ全域で最大のスターと言いますと「タンゴの神様」ことカルロス・ガルデルをして第一人者とすることに異論はありませんまい。1930年（昭和10年）に南米のコロンビアで航空機事故による不慮の死を遂げたにも拘らず、今日も彼の主演する映画がカラー化迄されてビデオ屋の店頭を飾り、SPの録音がステレオ化されて、さらにはCDで売り出されてベストセラーとなる。大統領の名前は知らなくてもガルデルの名を知らない子供は居ないとか、大変な人物であります。元来この人が私生児であることは周知のことでありまして、その母の名はBERTHE GARDES というのであります。ガルデルの本名は CHARLES ROMUALD GARDES と言うのであります。何でも幼少のみぎり母親とアルゼンチンに移住してきたのであります。

出生地：ガルデルがアルゼンチンで所持しておりました身分証明書には出生地がウルグアイの TACUAREMBO となっておりまして、コロンビアで亡くなりましたときに所持していた旅券にもそのように記載されておりましたので人々はこれを堅く信じて

いたのでありました。ところが世の中にはもの好きな人もいるものであります、今から20年も前に彼の本当の出生地がフランスのトゥールーズであることを現地の区役所の戸籍係迄出掛けまして出生証明書を探し出して広く世の中に紹介し、これが今では広く人々の受け入れるところとなっているのであります。そこに母BERTHEは「独身」と記載されておりました。「未婚の母」は当時では許されない存在でありました。それでガルデルの父親は誰なのか従来からいろいろと推測が行われてきておりました訳で、今回の記事はこの論争にいよいよ終止符をうつことになるのか、興味津々と言うところであります。

ルーツの探索：さて本題に戻りまして、このレポートは MARTHA BAEZ なるアルゼンチンの心理学者にして詩人、作家によりもたらされたものであります、何でも彼女の12年に及ぶ調査の結果であるとのことであります。BAEZ なる女性、年の程は不明ですが、大変な活動家であります度々ガルデルの生れ故郷のトゥールーズに足を運びましてトゥールーズ市長さんをたき付けてガルデル祭を催したり彼の生家を博物館にしたり、果ては1984年には当時のパリ市長、現在核実験で世界の憎まれ者のシラク大統領にも協力を得ましてガルデルがパリに住んだことのある建物（14, RUE DE L'ARCADE, PARIS）に記念の PLACA をはめ込んだりの活躍振りであります。そしてその努力はガルデルの出生の秘密を知る人物との出会いへと彼女を導いていくのであります。その人の名は RAYMOND GELOS と言いましてガルデルの父方の筋の人でガルデルとは medio – sobrino (甥) の関係にある由であります。

両親：この人によると、ガルデルの父親の名前は PAUL LASERRE と言いまして1866年トゥールーズの富裕な家の生れであります。長じて SIRVEN と言う製紙会社の技師として働いておりました。一方、ガルデルの母 BERTHE は同じ会社の清掃婦兼洗濯婦として働いておりました。この二人の仲が大層睦じくなりまして男の子が誕生します。これが後に「世紀の大歌手ガルデル」の誕生の秘密であるというのであります。

移住：19世紀末のフランスの片田舎ではあまりにも身分の違う二人の仲は認められず、遂にアルゼンチンへ移住を決意するに至ります。子供は2歳半で、旅にはこの父親が付き添ったと言います。落ち着いた先は、ブエノス アイレスの URUGUAY 通り160番地で ABASTO に近いこの当たりで少年は遊んだことでしょう。CARLOS GARDEL と命名された通りがわずか一丁ですが ABASTO に面しております。

タンゴの日：因にガルデルの誕生日は1890年12月11日。この日を記念してブエノスアイレス市では「タンゴの日」を制定して記念し続けております。そしてガルデルの歌声は今日もラジオにテレビにCDにと流れています。尚、GELOS氏からは父親の写真が贈られておりますが、どう見ても余りハンサムとは言えないようではやはりお母さんが相当の美人であったのであります。

アルゼンチン近況

◎政治・経済

○財政悪化に直面していたコルドバのアンヘロス知事（急進党）は銀行借入れによる問題解決の道が途絶えたことから、7月6日辞任した。同氏は83年以来11年間にわたり州知事を務めてきた。後任には5月の州知事選で選ばれた同じ急進党のメストレが就任した。アンヘロス辞任の背景にはアンヘロス知事とカバロ経済相の確執があった。

○7月8日に大統領就任式が行われ第二次メネム政権が発足した。任期は4年間。メネム大統領は今後の重要課題として失業対策（失業率は94年10月の12.2%から95年5月には18.6%に上昇）と行政の効率化を上げている。経済大臣には引き続きカバロが任命された。

○7月30日、メネム大統領はラプラタ川に広さ300 ha の人工島を造りブエノス・アイレス市内にあるホルヘ・ニューベリー空港をそこに移転する計画を発表した。又10万戸の住宅建設プランが明らかにされた。これらのプロジェクトはラプラタ川大橋（ブエノス・アイレス／コロニア）と共に経済活性化と雇用機会創出策として位置づけられている。

○8月8日未納となっている税金を徴収することにより税収向上を目的とした納税負担軽減措置が発表された。その内容は、①1~6月の未納分を10月以降30回の分割納税を認める、②社会保険料の未納分にも同一の措置を認める、③第1回目の支払いは現金で行い第2回目以降の支払いは国税庁宛の手形を振り出す、となっている。

○アルゼンチンでは与党、政府内部を含め広範囲に脱税、不正貯蓄などにより国家に不利益を与えるマフィア的行為が横行しているとのカバロ経済相の「マフィア発言」を契機として、政府内部からカバロ辞任を求める声が高まった（8月）。カバロ大臣は国会で郵便事業に関する不正につき企業家名を挙げて批判すると共に政府、旧国営企業内部はじめ経済のいたるところで不正が横行していると説明した。カバロ大臣辞任の懸念からマーケットでは一時株式、債券価格が暴落したがメネム大統領のカバロ大臣支持発言で漸く平静を取り戻した。名指しで非難された企業家ジャブランはカバロ大臣を名誉毀損で告訴した。

○労働組合が健康保険組合（ANSSAL）を通じて管理している社会保険料を国税庁を通じて経済省が管理することが決定された（8月）。ANSSALの資金は労働組合の活動資金となっていたのでこの措置により労働組合の弱体化と社会保険制度の改革が図られることになろう。又不正と腐敗の温床である銀行従業員保険組合（ISSB）を90日以内に清算することが明らかにされた。銀行は受入利息・手数料の2%をISSBに納付しているが、ISSB負担軽減は金融コストの大幅低下につながる。

○政府はマルク債（10億マルク　期間5年　クーポン 9.25%）とユーロ円債（1,000 億円　期間5年　クーポン 5.5%）の発行代り金により金利負担の高い国債の入札により償還方針を発表した。

第1回の入札が9月14日に行われ、応札は668百万ドルであったが落札結果はブレイディ債 29.9百万ドル、BOCON 70.1百万ドル、計100百万ドルとなった。第2回の入札は9月20日に行われ、930百万ドルの応札に対しブレイディ債 36.7百万ドル、BOCON 13.3百万ドル　計 50百万ドルが落札された。

○95年1~7月の貿易収支は1,237百万ドルの黒字となり前年同期 3,256百万ドルの赤字から 4,493百万ドルの改善となった。95年4~6月の経済成長率（GDP）はマイナス 3.7%、95年1~6月のGDPはマイナス 0.4%となったことから政府は95年のGDP見通しを3%から1%へ下方修正した。

○9月6日、高い失業率を生んだカバロ経済大臣の経済政策に抗議したメネム政権下で2回目のゼネストが行われた。国会記事堂前に約5万人が集まりメネム政権発足以来最大規模のストライキとなった。

なお、アルフォンシン政権（急進党 89年～89年）ではゼネストは18回行われた。

(筆者：東京銀行 小林晋一郎氏)

◎大来財団 活動：アルチョウロン会長、タカスク副会長 訪日

7月16~21日訪日、同財団日本評議委員会、河合世話役／国際開発センター会長、斎太事務局長、小林幹事のアレンジにより下記、日本産・官・学各界の要人と面談、両氏より主として、メネム大統領再選、メキシコ通貨危機克服につき報告後、要人と日亜関係促進につき多岐に亘る意見交換を行い極めて有意義であった。

大来財団日本評議委員会委員：香西日本経済センター理事長、内村日本農業研究所理事長、内海慶應大学教授、

委員会事務局：小浜幹事／静岡県立大学教授、堀坂コアーメンバー／上智大学教授

日本政府：竹下衆議院議員、篠沢大蔵省事務次官、大来経済企画庁物価局長

政府関連団体：豊島日本貿易振興会理事長、木下日本輸出入銀行海外投資研究所長、中川海外投融資情報財団理事長

民間団体：豊田経済団体連合会会長、根本日本経営者団体連盟会長、牛尾経済同友会代表幹事、稲葉商工会議所会頭、由布日本国際協力機構社長、藤本日本アルゼンチン協会理事（元在亞 日本大使）

その他：山下宮内庁侍従長（元在亞 日本大使）、野間日本経済新聞国際第1部記者
民 間：商社、銀行、メーカー、スーパー 数社代表

(筆者：大来財団日本評議委員会事務局長 斎木 茂治)

日ア関係諸行事

◎外務省新中南米局長の歓迎懇親会

佐藤俊一新中南米局長（1960年入省）の歓迎懇親会が、9月22日内幸町聘珍楼で催され野村専務理事が出席した。近藤四郎副会長は、ラテン・アメリカ協会の副会長として乾杯の音頭をとられた。

佐藤局長は、冷戦後の中南米は経済的な問題を抱えつつも、政治的には安定の方向に進みつつあり、さらに関係を強化していきたいとの抱負をのべ、参加した各協会は相互に連携を深めるよう意見を交換した。出席した関連協会は、ラテン・アメリカ協会および当協会ほか、日本ウルグアイ、日本ヴェネズエラ、日本コロンビア、日本ジャマイカ、日本チリ、日本パナマ交流、日本パラグアイ、日本ブラジル中央、日本ボリビア、日墨交流の12協会。

◎ラテン・アメリカ技術交流センター主催研修員激励パーティ

9月22日ラテン・アメリカ技術交流センターが受け入れた平成7年度研修生9名（日系ブラジル6名、同ペルー2名、同メキシコ1名）に対する激励パーティが同センターで開催された。研修期間（平均7カ月）の中頃で激励パーティを毎年行っており、研修員の日本語会話も不自由なく上手なのは感心した。

◎リード代理大使の野本翁宅、モンテネグロ会館、境町立長田小学校訪問

9月24日リード代理大使は先ず野本作兵衛翁宅（茨城県猿島郡）を訪ね、野本作兵衛翁の百歳の誕生日の表敬のあと、庭先にあるモンテネグロ会館（詳細は会報第9号ご参照）を訪問し、1935年～41年（昭和10～16年）の間モンテネグロ公使より奨学金を受けた生徒合計35人（内戦死者の写真10枚余が同会館に掲額）の内、待ち受けた4人（男性4人、女性1人）の方と会見し長田小学校とアルゼンチン大使館との60年間に亘る友好親善関係を懐旧しながら談笑した。

その後、リード代理大使は、長田小学校の運動会場へ赴き、各種競技を見学し、リード代理大使の歓迎並びに野本翁（同校先輩）への100歳誕生祝の花束贈呈が夫々行われた後、鼓笛隊の行進、全生徒による「カミニート」（スペイン語）斉唱を聞き、同代理大使は深い感銘を受け同小学校を辞去した。

◎ブエノス・アイレス日亜学院に対する古本の寄贈

同学院は中等部創設を機会に図書館の整備充実を計るため、当協会に対し、古本の寄贈を依頼して来ました処、今般、境町立長田小学校（茨城県猿島郡）及び座間市立ひばりが丘小学校（神奈川県）のご協力を得て、夫々ダンボール56箱（890kg）及び同19箱（440kg）、合計75箱（約2,500冊）を大阪商船三井船舶（株）の船で、運賃無料にて輸送させて頂きました。

なお、古本の収集にご協力いただいた長田小学校及びひばりが丘小学校の教職員、生徒、PTAの皆様並びに船積輸送にご支援下さった国際協力事業団（企画部移住調

整課)、ジャパン・エキスプレス(株)、大阪商船三井船舶(株)の皆様に対し、当協会より心から厚くお礼申し上げます。

文化行事のお知らせ

◎ “アルゼンチンの夕べ” ご案内

きたる11月15日(水)午後6時より霞が関三井クラブで、当協会の会員相互の懇親パーティを開催いたします。(詳細は別紙チラシご参照)

来賓として外務省、アルゼンチン大使館、防衛庁海上自衛隊、ラテン・アメリカ協会の方々を予定しています。

当夜のハイライトは、来日中のタンゴの王様、ドナート・ラシアッティ楽団のタンゴ演奏。杯をかたむけ、ブュッフェ・ディナーで心ゆくまで秋の夕べをお楽しみ下さい。

多数の方々のご来場をお待ちしたく、お友達、会社の同僚など多数お誘い合わせの上、ご参加ください。

法人メンバー社のなかにはこの機会を利用して、かつてアルゼンチンに駐在した方々を召集し、ご夫人ともども旧交を温める計画を進めている会社もあります。

なお、協会会員の住所録を作成しパーティ席上で配布する予定ですので、添付した「返信用はがき」は、ご出欠にかかるわらず早めにご投函ください。

◎日本・ラテンアメリカ婦人協会主催バザール

(1955 フェステバル・ラティノアメリカーノ)

日 時：11月9日(木) 11:30～15:00

場 所：東京全日空ホテルB1 凤(第1会場)、瑞雲(第2会場)

交 通：千代田線・国会议事堂前駅5番出口より徒歩8分、銀座線・虎ノ門駅3番出口より徒歩10分、日比谷線・六本木駅3番出口より徒歩12分

入場券：2,000円(抽選券付き)

連絡先：03-3413-2504、03-3333-1090

◎フリオ・ゴヤ(日系2世)彫刻展

日 時：11月22日(水)～12月2日(土) 12:00～19:00 (日・祝休)

場 所：プロモ・アルテ(渋谷区神宮前5-51-4 GALERIA 2階)

交 通：地下鉄・表参道駅(銀座線、千代田線、半蔵門線、B2出口より徒歩3分)

後 援：アルゼンチン大使館

連絡先：プロモ・アルテ(03-3400-1995)

◎ドナート・ラシアッティ タンゴ樂団演奏会

☆日 時：11月 9日（木） 19:00 東京建設自労会館 8F
11月 10日（金） 19:00 (東西線・門前仲町駅下車 徒歩7分)

入場料：当日 3,000円

前売 2,800円

連絡先：03-3641-8275

☆日 時：12月 20日（水） 19:00 トーケン・スタジオ BE フリー
(小田急線・狛江駅下車 徒歩7分)

入場料：2,500円

連絡先：03-3430-7328

◎ノチエ・デ・タンゴ・アルヘンティノ

日 時：12月 5日（火） 18:00 エクセレントコースト・ボールルーム
(JR 石川町駅南口下車 徒歩約10分)

演 奏：ドナート・ラシアッティ 楽団

歌：小原 みなみ

会 費：15,000円 (着席ブッフェ・ディナー・ショー)

連絡先：小原みなみ（当協会会員）オフィス 045-716-2612

その他のお知らせ

◎アルゼンチン旅行「アルゼンチン物語」ご案内

近畿日本ツーリスト（千代田支店）は、当協会の協力のもと、在京アルゼンチン大使館の後援を得て、次の日程（オプションとしてバルデス半島ツアーノン参加者のために、ゴルフ・プレーまたはサッカー留学先の見学アレンジ可）を企画致していますので、お誘いの上参加くださるようご案内申し上げます。

1995年11月18日（土）～11月27日（月） ¥398,000.-

企画協力：(社) 日本アルゼンチン協会、ANGEL アルゼンチン日本友好協会

後 援：アルゼンチン大使館

旅行主催：近畿日本ツーリスト（株） 東京千代田支店（03-3295-5061）

◎高級魚ペヘレイの里・日帰りツアー 来春へ順延

会報第8号（4月20日発行）の「高級魚ペヘレイの里—安田養殖場を訪ねて」の記事の末尾で触れました日帰りツアーは、諸般の事情で来春へ順延致しますのでご了承願います。なお、日帰りツアーが具体化しましたら改めて本会報でお知らせ致します。

◎法人新会員紹介（申込み順）

このたび、次の法人が入会されました。

トヨタ自動車株式会社

日本長期信用銀行

◎ビタミン源「マテチャ」

アルゼンチンの光と土と水が育てた兼好飲料水如何ですか。

純マテ ￥1,600 (250グラム)

マテミックス ￥1,800 (ティーバッグ 40コ入り)

連絡先：(株) ハプトインターナショナル 03-3900-0646

人 事 往 来

1. 来 日

○カバロ経済大臣 9月4日～9日

○マガリーニョス工業庁長官 "

○ソラ農牧水産庁長官 "

○アシス・ラ・リオハ州副知事 "

○フォルタバット投資基金副会長 "

○高坂 和憲 PECOM-NEC 専務取締役 "

(以上、メルコスール・セミナーに出席)

○マルタ・アルゲリッチ (ピアニスト) 9月上旬

(別府でコンサート)

○ガブリエラ・サバティーニ (テニス) 9月17日～24日

(ニチレイ・レディース出場、準決勝で敗退)

○菊池 寛士 エキパルコン (株) 社長 10月4日～12日

(「平成7年度海外経済協力貢献者表彰」受賞のため)

2. 訪 ア

○江藤 隆美 衆議院議員夫妻 7月25日～27日

○長野 岡山県知事 8月9日～11日

○小寺 群馬県知事 8月23日

- 井本 佐賀県知事 8月24日
○海外きもの使節団 8月24日～26日
3. 在亜日系団体連合会 (FEDERACION DE ASOCIACIONES NIKKEI EN LA ARGENTINA) 新役員紹介 (8月24日就任)

会長 多和田 真昭
副会長 饒平名 知秀
幹事 水谷 徹
会計 諸喜田 敬
事務局長 大木 裕

(註: 同連合会は、移住100年祭に係わる日系社会紛争後に設立された。)

事務局からのお願い

「個人会員および個人贊助会員」募集

当協会の構成員は「法人」を主体としていますが、このほか「個人正会員」(議決権有り)の制度があり、現在30数人がメンバーに登録されています。さらに文化活動への参加を主眼とした「個人贊助会員」制度(議決権なし)があり、広く当協会へのご支援をお願いしています。

個人会員制度の概要は次のとおりです。

- ①☆正会員 (定款上総会の構成員。議決権有り) 年会費 ¥ 10,000
☆贊助会員 (定款上総会には非構成員。議決権なし。
その他は原則として正会員に準ずる) 年会費 ¥ 5,000
- ② 会報: 当協会の発行する「会報」をお届け(無料)することにより、日ア間の最新情報を文化、通商、経済などに亘って提供します。
- ③ 文化活動ないし演奏会などの催物のご案内、割引案内を行い、ご希望の分野にご参加(実費徴収)いただきます。
- ④ 定例総会のほか「親睦会」を開催し会員相互および在京大使館との交流を計ります。
アルゼンチンに関心の深いご友人、関係先の方々を、是非ともご勧誘ください。事務局にご一報あれば加入申込書を、ご本人あて郵送いたします。

投稿歓迎

「会報」についてのご感想、ご意見のほか会員の皆様からの消息、近況などの投稿(内容自由、ただしアルゼンチンに関連したもの)をお待ちしています。紙面の都合で止むなく、一部手直しさせて頂く場合がありますので、予めお含みください。